



第134号  
野毛山幼稚園  
横浜市西区老松町30  
TEL045-231-0150

「愛されている」と思うことで育つ

野毛山幼稚園 園長 奈良昌人

2024年9月20日、米国MLBドジャースの大谷翔平選手が「50-50」という史上初の偉業を成し遂げ、加えてドジャースのワールドシリーズ優勝、そして日本では横浜DeNAベイスターズが下剋上の末に日本シリーズで優勝して横浜が歓喜に包まれ、野球が大きく注目されました。年長ゆり組では9月頃から「野球やりたい！」との声が上がリ、運動会が終わるのを待って少しづつやり始めました。その後、横浜DeNAベイスターズの「野球ふれあい訪問」があり、野球指導のほか、tiaraの皆さんのダンス指導、マスコットのDB.スターマンとのふれあいなどを体験してさらに野球熱が高まり、保護者の皆さんが作った帽子やヘルメットをかぶって野球をする子が出てきました。3学期になって野球熱はさらに加速し、毎日一度は野球をするようになり、私もピッチャーを頼まれ「今、野球できますか？」と子どもたちが迎えに来るのがとても嬉しいです。子どもたちのバッティングは本当にかっこよく、隣のマンシヨンまでボールを飛ばすほどで、ネクスト

バッターズサークルで素振りをする子もいます。ルールも少しずつ増えていきます。チーム分け、先攻後攻を決めるジャンケン、打順を示すゼッケン、ストライク、ボール、アウト、ファウル、打った後はバットを投げない、前のランナーを追い越さない、やじを飛ばさない、フェアインプレーは讃える、試合終了時には整列して挨拶をする、ベースを片付けるなど、まるで、幼稚園の野球部のようにです。初心者(野球をはじめてやる友だち)には子どもたち自らルールを甘くし、コーチになってバットの持ち方や振り方をアドバイスしたりしているのには驚きました。「あと何回野球できる？」と聞く子もいて、本当に、幼稚園の日々を惜しんで野球をしているのです。その年長に憧れて年中の中にも野球に加わってくる子どもたちがいます。このことは、野球だけではなくドッジボール熱も、チョコレート工場熱も、砂場の山作り熱も、バナナ鬼熱も、ホッピング熱も、縄跳び熱も、みんな加熱中で、子どもたちはその学年らしく、その子らしく幼稚園の生活を楽しんでいきます。みんな本当に大きくなりました。

このように子どもたちが大きくなった背景には周りのおとなの愛情があります。愛情たっぷりな証拠に、子どもが好きな球団の帽子やヘルメットを保護者の皆さんがかっこよく作っているではないですか。買ったものを持ってきた子はいます。その愛情の中で子どもたちが幼稚園で好きなことをして遊び、遊び込む中で自らが持つ育つ力がどんどん出てきていくのです。

「ママがいい！」の著者、松居和先生は、「親たちの、「可愛がる」喜びが、子どもたちの、「信じる力」につながっていく。自分の子どもの寝顔を眺めているだけで、人はしあわせになれる。子どもを可愛がつてさえいければ、いい人生が約束される。それに気づけばいいのです。それには、幼稚園という場がいい。ここで過ごす時間が、一家の人生を支える時代です。」と言っています。

何かと先が見えない時代だからこそ自分で考える力、五感を使うこと…その基本はセンス・オブ・ワンダー(不思議と思う心)、人と共感できる力、協力してやり通せる力、失敗しても立ち直れる心のしなやかさ(レジリエンス)が求められますが、その土台はたっぷりの愛であり、「愛されている」と思うことで育つのです。愛に満たされて「I am OK!」という自己肯定感が養われ、であればこそ

You are OK!と他者を認めることができます。卒園するゆり組、進級するすずらん組、くるみ組の皆さん、おめでとうございます。これからも、この子どもたちと愛情たっぷりに過ごしましょう。

「親は教育者ではない、保護者である。」

